

伊吹山花だより

水無月のひと雨ごとに、伊吹の草花賑やかに

雨露に濡れた山野草も素敵です。でも伊吹山は標高1,377m、三合目でも720m。無理せずに安全に楽しんでください。

ヤマアジサイ
(山紫陽花)



コアジサイ
(小紫陽花)



イブキノエンドウ
(伊吹野豌豆)



花やさやの形状がエンドウに似て、伊吹特産種なのが和名の由来。花は葉腋に1~2個つき、花色は淡紫色で長さ1.5cm程。

ササユリ
(笹百合)



葉が笹に似るのが和名の由来。花に強い芳香あり、花色は淡紅色。花弁先は少し反転し、雄しべの葯は赤褐色。

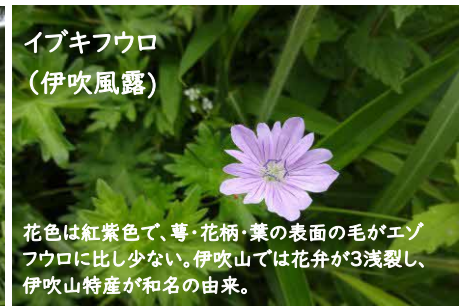
軽やかな旋律に揺れササユリ、細やかな幸頂いた朝

イブキトラノオ
(伊吹虎の尾)



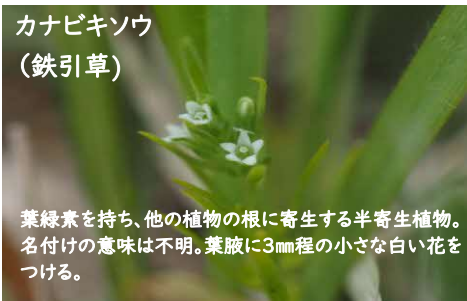
茎先に白か淡紅色の花穂をつけ、葉の基部は茎を抱く。伊吹山で見つかり、花序が虎の尾に似るのが和名の由来。

イブキフウロ
(伊吹風露)



花色は紅紫色で、萼・花柄・葉の表面の毛がエゾフウロに比し少ない。伊吹山では花弁が3浅裂し、伊吹山特産が和名の由来。

カナビキソウ
(鉄引草)



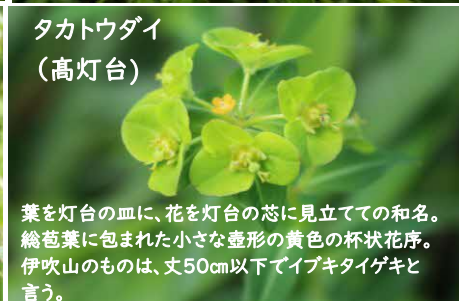
葉緑素を持ち、他の植物の根に寄生する半寄生植物。名付けの意味は不明。葉腋に3mm程の小さな白い花をつける。

ヤマツツナミンウ
(山立浪草)



花の咲き姿を立浪に見たてての和名。花序は一方に偏って斜めに唇形花をつけ、花冠は青紫色。

タカトウダイ
(高灯台)



葉を灯台の皿に、花を灯台の芯に見立てての和名。総苞葉に包まれた小さな壺形の黄色の杯状花序。伊吹山のもの、丈50cm以下でイブキタイゲキと言う。



ノアザミ
(野薊)

可愛さに惹かれ触ると痛い。欺むくが転訛してアザミに。茎頂に上向きに直立した頭花がつく。野薊は春から咲き始め薊の中では珍しく早い。

オオナルコユリ
(大鳴子百合)



淡緑色の花は、葉のもとに3~7個づつ吊り下ってつく。花姿が鳥の背しに使う鳴子に似るのが和名の由来。茎の切り口は丸い。



スズサイコ
(鈴柴胡)

黄緑褐色の花や蕾を柄先に多数たらず姿が鈴の様に見えるのが和名の由来。花冠は5裂、裂片は開出し光沢があり、星形の花。

テリハノイバラ
(照葉野茨)



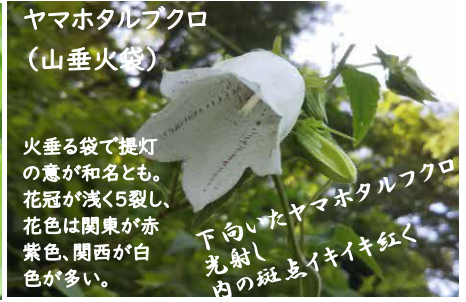
野茨で、葉に光沢があるのが和名に。花は径3cm程で、花弁は5枚。枝に鉤形の棘がある。雄しべは多数。

ナワシロイチゴ
(苗代莓)



苗代の頃に赤い実が熟すので和名に。落葉小低木で、茎に棘ある。花弁は5mm程で赤紫色の5枚だが、開かない。

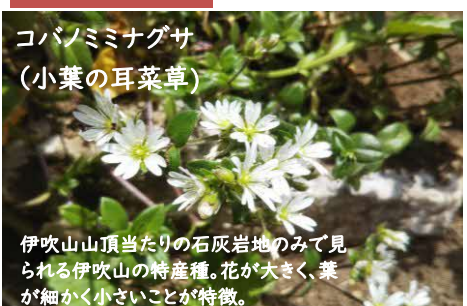
ヤマホタルブクロ
(山垂火袋)



火垂る袋で提灯の意が和名とも。花冠が浅く5裂し、花色は関東が赤紫色、関西が白色が多い。

頂上で会いましょう。

コバノミミナグサ
(小葉の耳菜草)



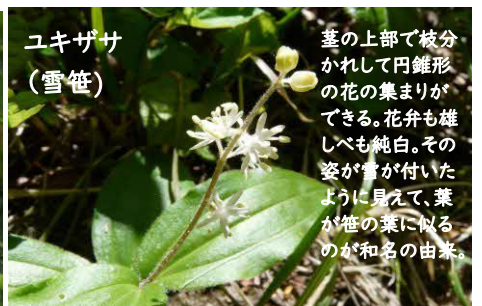
伊吹山山頂当たりの石灰岩地のみで見られる伊吹山の特産種。花が大きく、葉が細かく小さいことが特徴。

グンナイフウロ
(郡内風露)



山梨県郡内地域に多いので和名に。花は3cm程で集散状に紅紫色の5弁花がつき、水平より反り気味につく。

ユキザサ
(雪笹)



茎の上部で被分かれて円錐形の花の集まりができる。花弁も雄しべも純白。その姿が雪が付いたように見えて、葉が笹の葉に似るのが和名の由来。

昨年秋に設置した三合目金属柵内の植生調査を実施 早くも効果が!

昨年9月に株式会社資生堂様、ヤママップ様のご支援により伊吹山三合目に新設した金属柵。ニホンジカの獣害が顕在化する前は三合目の花の象徴でもあるユウスゲの群落が最も密度濃く広がっていたエリアを全長180mの金属製の柵で囲いました。

そして今年5月9日、植物の専門家の指導の下、どのような植生になっているのか調査を行ったところ、昨年まではただ一本のユウスゲすら咲かなかったエリアに、多くのユウスゲの若芽が確認できました。これら若芽は1,2年生で、開花するのはまだ数年先ですが、とても楽しみです。また、伊吹山の固有種イブキアザミ、織田信長の薬草園を裏付けるとされるイブキノエンドウ、さらにはササユリ、シュロソウ、ヒロハハナヤスリ、ツリガネニンジン、オトギリソウ、ノダケ、エゾノタチツボスミレほか全部で約70種もの植物を確認することができました。食害で失われた植生は金属柵を設置することで、まだ再生可能なことがわかりました。

既存の三合目の樹脂ネット(全長約1km)も設置から10年を経過し劣化が進み、ニホンジカに容易に破られるリスクも高くなっており、早急に金属柵に置き換え、貴重な植物を保全する必要があります。



目指す豊かな植生

朝ドラ「らんまん」でこれまで紹介された花たちで伊吹山で見られるものをご紹介します

日本の植物分類学の父と言われる牧野富太郎博士がモデルのNHK朝の連続ドラマ「らんまん」。博士は8回も伊吹山に調査に来られました。ドラマは今年4月から始まり各週ごとにサブタイトルとして「バイカオウレン」、「ササユリ」など植物の名が付けられ、物語の中でもいろいろな植物が取り上げられストーリーに彩りやアクセントを添えています。このうち伊吹山に自生する花たちをいくつか紹介します。



ヤマトグサ
(大和草)

らんまんの冒頭に「おまん誰じゃ」と登場。牧野富太郎が初めて命名した植物。和名は日本の草、日本を代表する意が込められている。小柄な草本で、雄花は雄しべが垂れ下がる独特な姿。



セツブンソウ
(節分草)

病床の母のためにバイカオウレンと間違えて持ち帰った花。春早く咲くのでこの名に。石灰岩地を好む。白い花弁状のものはガク片で、花弁はガク内部に棒状で多数あり先端は黄色の蜜腺になる。



オオナンバンギセル
(大南蛮煙管)

蘭光先生と仁淀川へ行く途中で見つけた花。万葉集に「道の辺の尾花が下の思ひ草今さらさら何か思はむ」と詠まれた。スキ(尾花のこと)等の根などに寄生する。煙草のパイプの形からこの名に。

収監された警察署からの帰り道、祖母タキに名前を覚えてもらった花。狐の剃刀は春先に出る狭長な葉の形に基づいた名前。有毒。オオキツネノカミソリは花弁から長く突き出る雄しべが特徴。



在来種タンポポ
(蒲公英)

上京した万太郎が新橋駅に降り立って初めて見て「佐川は白いのに黄色い、境目はどじやろう」と。伊吹山山頂部では固有種のイブキタンポポ(セイウタンポポの石灰岩地の変種で綿苞片の背部が黒緑色で縁が白膜質)が自生するが、近年西洋タンポポ(綿苞片が反り返る)に駆逐され生息域を奪われている。山頂では駆除作業が行われている。



反り返る
セイウタンポポ
(西洋蒲公英)



ドクダミ
(葎) Wikipedia

東京の下宿先の長屋の周りに生え「毒と痛みを消すき、ドクダミゆう名がついたがじゃ」と説明。三大民間薬の一つで、十の薬効があることで「十薬」とも。「強いのを踏まれて強くなるがじゃろうか」と幼い万太郎が足元のオオバコに気付きつぶやいた。ともに伊吹でも薬草として利用され、昭和40年代までこれらの採取は学校の宿題(教材費に活用)でした。

6月の植物観察会は6月25日。早くも夏の花も咲き始め、季節の移り変わりを体感

6月の植物観察会では、例年、この「伊吹山花だより6月号」の表面に掲載した花々(山頂の花は除きます)や、次の花たちも観察できますが、今後の天候の状況によって見られない場合もあるのでご了承願います。昨年はササユリが盛りを過ぎてましたが、ユウスゲが早くも咲き出し約20種の花を観察できました。参加申し込みはこのチラシ一番下の電話番号までお願いします。

【お願い】伊吹山では植物を保護する獣害防止ネットを設置していますが、ニホンジカはネットを破って侵入を試みます。このため破れのチェックや補修は不可欠です。皆様の出入りは自由ですが出入口ドアは必ず閉めてください。

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

会長 高橋滝治郎 TEL 090-3286-8191

副会長 堀江 寛 TEL 0749-58-1323